

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】 専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常勤 教員	専任教員一 人あたりの 在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理 学療法 士又は 作業療 法士数			
作業療法 士科	人	人	人	人	人	6人	6人	人	43人	6.7人
計	人	人	人	人	人	6人	6人	人	43人	—

【自己評価 1-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
<input type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	心理学	15	柴田 博美	兼任
		倫理学	15	木村 和弘	兼任
		物理学	8	堀越 圭子	兼任
		生物学	15	沖田 章子	兼任
		医学英語	15	續 なおみ	兼任
		保健体育	15	田中 靖人	兼任
		情報処理演習	8	岡田 誠暁・大永 寛	専任
		人間関係論	15	富本 隆江	兼任
		キャリア教育 I	8	嘉納 綾・淡路 大致・ 岡田 誠暁・山本 翔太・ 井上 直樹・大永 寛	専任
		キャリア教育 II	8	淡路 大致	専任
専門基礎 分野	人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖学 I	30	小形 晶子	兼任
		解剖学 II	30	小形 晶子	兼任
		解剖学演習 I	8	嘉納 綾	専任
		解剖学演習 II	8	井上 直樹	専任
		解剖学演習 III	8	大永 寛	専任
		解剖学演習 IV	5	嘉納 綾	専任
			5	井上 直樹	専任
			5	大永 寛	専任
		生理学 I	15	山本 翔太	専任
		生理学 II	15	山本 翔太	専任
		生理学 III	15	石井 禎基	兼任
		生理学演習	5	岡田 誠暁	専任
			4	田中 靖人	兼任
			6	沖田 章子	兼任
		運動学	15	中田 修	兼任
		運動学演習 I	15	岡田 誠暁・大永 寛	専任
		運動学演習 II	15	中島 大輔	兼任
		人間発達学	10	砂古口 雅子	兼任
			5	岡田 誠暁	専任
専門基礎 分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	内科学 I	6	山本 翔太	専任
			4	岡田 誠暁	専任
			5	澤田 勝寛	兼任

		内科学Ⅱ	6	山本 翔太	専任
			9	大永 寛	専任
		臨床心理学	15	柴田 博美	兼任
		精神医学Ⅰ	15	淡路 大致	専任
		精神医学Ⅱ	15	淡路 大致	専任
		整形外科Ⅰ	11	久保 周平	兼任
			4	大永 寛	専任
		整形外科Ⅱ	7	中田 修	兼任
			4	嘉納 綾	専任
			4	井上 直樹	専任
		一般臨床医学Ⅰ	5	嘉納 綾	専任
			3	林田 健	兼任
		一般臨床医学Ⅱ	2	嘉納 綾	専任
			2	郡司嶋 一輝	兼任
			1	岩井 克磨	兼任
			2	末安 朋雄	兼任
			1	山寄 統子	兼任
		神経内科学	15	劉 兆権	兼任
		病理学概論	15	宮下 久美子	兼任
		小児科学	15	砂古口 雅子	兼任
臨床栄養学	4	三好 真琴	兼任		
	4	前重 伯壮	兼任		
臨床薬学	8	大石 美恵	兼任		
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	12	淡路 大致・井上 直樹	専任
			1	長崎 民枝	兼任
			1	坂東 恵美子	兼任
			1	田中 義之	兼任
		リハビリテーション医学	5	嘉納 綾	専任
			3	中島 大輔	兼任
		社会福祉学	15	棚野 恭範	兼任
地域ケア論	8	吉田 史朗	兼任		
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ	11	嘉納 綾	専任
			1	佐野 有咲	兼任
			1	山下 陽平	兼任
			1	野田 直嗣	兼任
			1	森 直子	兼任
		作業療法概論Ⅱ	8	嘉納 綾・山本 翔太・井上 直樹	専任
		基礎作業学	15	岡田 誠暁	専任

		基礎作業学演習Ⅰ	8	中曾 晃子	兼任
			4	岸田 由起	兼任
			3	岡田 誠暁	専任
		基礎作業学演習Ⅱ	15	嘉納 綾	専任
専門分野	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	8	嘉納 綾	専任
			6	嘉納 綾	専任
		作業療法管理学Ⅱ	1	淡路 大致	専任
			1	岡田 誠暁	専任
専門分野	作業療法評価学	身体障害評価学Ⅰ	15	山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	専任
		身体障害評価学Ⅱ	15	山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	専任
		身体障害評価学Ⅲ	15	井上 直樹・大永 寛	専任
		精神障害評価学Ⅰ	15	淡路 大致	専任
		精神障害評価学Ⅱ	15	淡路 大致 濱崎 光弘	専任 兼任
専門分野	作業療法治療学	身体障害治療学Ⅰ	15	山本 翔太	専任
		身体障害治療学Ⅱ	15	山本 翔太	専任
		身体障害治療学Ⅲ	15	中田 修	兼任
		身体障害治療学Ⅳ	11	井上 直樹	専任
			4	藤井 一真	兼任
		身体障害治療学Ⅴ	6	嘉納 綾	専任
			4	山田 陽子	兼任
			3	久保 周平	兼任
			2	藤井 一真	兼任
		身体障害治療学Ⅵ	13	山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	専任
			2	山田 陽子	兼任
		身体障害治療学Ⅶ	6	嘉納 綾	専任
			6	山本 翔太	専任
			2	山本 浩介	兼任
			1	林田 健	兼任
		身体障害治療学演習Ⅰ	15	井上 直樹	専任
		身体障害治療学演習Ⅱ	4	岡田 誠暁	専任
			6	宮下 悠紀	兼任
			2	中田 修	兼任
			2	福林 秀幸	兼任
			1	中村 由果理	兼任
		精神障害治療学Ⅰ	15	淡路 大致	専任

		精神障害治療学Ⅱ	15	淡路 大致	専任
		精神障害治療学Ⅲ	15	淡路 大致 濱崎 光弘	専任 兼任
		発達障害治療学Ⅰ	15	笹井 久嗣	兼任
		発達障害治療学Ⅱ	15	笹井 久嗣	兼任
		高次脳機能障害治療学	15	中田 修	兼任
		日常生活活動	15	岡田 誠暁	専任
		老年期障害治療学Ⅰ	15	岡田 誠暁	専任
		老年期障害治療学Ⅱ	15	岡田 誠暁	専任
		義肢装具学	6	嘉納 綾	専任
			6	大庭 潤平	兼任
			2	谷 和真	兼任
			1	鮫島 一雄	兼任
		福祉用具学	8	嘉納 綾	専任
		作業療法臨床技能演習	15	嘉納 綾・淡路 大致・ 岡田 誠暁・山本 翔太・ 井上 直樹・大永 寛	専任
専門分野	地域作業療法学	生活環境学	8	嘉納 綾	専任
		地域作業療法学Ⅰ	5	岡田 誠暁	専任
			2	河野 隆	兼任
			2	大浦 由紀	兼任
			2	上原 央	兼任
			2	野之上 愛梨	兼任
			2	永坂 潤一	兼任
		地域作業療法学Ⅱ	7	嘉納 綾	専任
			4	岡田 誠暁	専任
			4	猪川 俊博	兼任
		職業関連活動	7	嘉納 綾	専任
			3	淡路 大致	専任
			1	大谷 将之	兼任
			1	小川 美幸	兼任
			1	笹井 久嗣	兼任
			1	角谷 哲生	兼任
			1	中田 修	兼任
専門分野	臨床実習	見学実習		嘉納 綾・淡路 大致・ 岡田 誠暁・山本 翔太・ 井上 直樹・大永 寛	専任
		観察実習		嘉納 綾・淡路 大致・ 岡田 誠暁・山本 翔太・	専任

			井上 直樹・大永 寛	
		臨床評価実習	嘉納 綾・淡路 大致・ 岡田 誠暁・山本 翔太・ 井上 直樹・大永 寛	専任
		臨床実習Ⅰ	嘉納 綾・淡路 大致・ 岡田 誠暁・山本 翔太・ 井上 直樹・大永 寛	専任
		臨床実習Ⅱ	嘉納 綾・淡路 大致・ 岡田 誠暁・山本 翔太・ 井上 直樹・大永 寛	専任
		地域実習	嘉納 綾・淡路 大致・ 岡田 誠暁・山本 翔太・ 井上 直樹・大永 寛	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習（見学実習）	1年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		作業療法概論Ⅰ	1年前期
		基礎作業学	1年後期
		基礎作業学演習Ⅰ・Ⅱ	1年前・後期
		福祉用具学	1年後期
		作業療法特論Ⅰ・Ⅱ	1年前・後期
見学実習（観察実習）	2年前期	作業療法管理学Ⅰ	2年前期
		日常生活活動	2年前期
		作業療法特論Ⅲ	2年前期
評価実習（臨床評価実習）	2年後期	身体障害評価学Ⅰ～Ⅲ	1年後期・2年前期
		精神障害評価学Ⅰ・Ⅱ	2年前期
		作業療法管理学Ⅱ	2年後期
		作業療法臨床技能演習	2年後期
		生活環境学	2年後期
		作業療法特論Ⅳ	2年後期
総合臨床実習（臨床実習Ⅰ・臨床実習Ⅱ）	3年前期	身体障害治療学Ⅰ～Ⅶ	2年前・後期
		身体障害治療学演習Ⅰ・Ⅱ	2年前・後期
		精神障害治療学Ⅰ～Ⅲ	2年前・後期
	3年後期	発達障害治療学Ⅰ・Ⅱ	2年前・後期
		高次脳機能障害治療学	2年後期
		老年期障害治療学Ⅰ・Ⅱ	2年前・後期
		義肢装具学	2年後期
		職業関連活動	2年後期
通所リハビリテーションの見学・体験 （地域実習）	3年前期	地域ケア論	2年前期
		地域作業療法学Ⅰ・Ⅱ	2年後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校評価委員会	
委員名（委員長）	委員長 鮫島 一雄	
組織の開催頻度	年3回程度	
組織の取り組み内容	次の事項の取り組みを行っている。	
	(1) 学校評価の実施・運営に関すること。	
	(2) 自己評価の評価基準項目に関すること。	
	(3) 自己評価報告書の作成に関すること。	
	(4) 学校評価結果に基づく改善策の提案に関すること。	
	(5) 学校評価結果の公表に関すること。	
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL: https://www.kobecc.ac.jp/entrance/school/johokokai/ ）	

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	各科の教務委員（7人）、事務職員
	改善の仕組みの実際	教務委員会で定期的に記載内容の検討を行っている。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価、授業評価、学校評議会の評価及び外部評価の意見等を受け、改善策を検討することとしている。
